

# 古川ひろし とくしま通信

VOL.3 平成29年12月15日発行

皆様の声を、徳島を動かす力に。  
その架け橋をめざして。



## 「地球温暖化を考えるセミナー」を開催

最近のゲリラ豪雨や巨大台風の被害によって、ようやく地球温暖化対策への具体的な議論が交わされるようになってきました。この度、公明党県議団による「地球温暖化を考えるセミナー」を開催。地域住民や行政の方々とともに、地球温暖化の現状や課題を再確認しました。今後も議員としての立場から、未来に向けた議論を重ねてまいります。



## 阿波踊りのさらなる振興を

昨年度の9月議会で提案をさせていただいた、阿波踊り期間中の「イベント民泊」が実現し、観光客の受け入れ体勢強化や、周辺地域の活性化への確かな一歩を踏み出しました。私自身、関東の3大阿波踊りも体験させていただきましたが、その熱気や観客の多さに圧倒されると同時に、改めて徳島ならではの豊かな風情や歴史の重みを感じた次第です。今後は他地域との交流なども視野に入れながら、観光はもちろん、地域おこしの起爆剤として阿波踊りを活用できればと考えております。

## 「地域共生社会」実現へ先駆けて

核家族化が進み、地域のコミュニティが崩壊していく中で、地域のつながりを再構築することは日本全体の課題となっています。育児と介護の同時進行や、成人した子どもの引きこもり、それに伴う貧困問題など、さまざまな問題が複雑に絡まり合う時代だからこそ、従来の縦割りを解消し、地域ぐるみの連携を行うことが重要です。徳島が地域共生社会のトップランナーになれるよう、いっそう力を注いでまいります。

## 阿波踊り期間中、 ごみステーションを 演舞場外に設置



私が代表を務める「ごみゼロ阿波踊り実行委員会」では、演舞場周辺6カ所にごみステーションを設置し、ごみの分別回収を実施。2005年より地域の皆さんと共に続けてきた活動は、公明新聞でも紹介されました。

## 古川広志 プロフィール

(ふるかわ ひろし)

- 生年月日 昭和36年(1961年)8月12日
- 出身地 徳島県阿南市那賀川町
- 現住所 徳島県徳島市住吉2丁目7-19
- 家族 妻(ひとみ)と2人家族
- 現党職 公明党徳島県本部 代表代行

### ●経歴

- 昭和49年 平島小学校 卒業
- 昭和52年 那賀川中学校 卒業
- 昭和55年 富岡西高校 卒業
- 昭和59年 創価大学経済学部 卒業
- 昭和59年 徳島県庁入庁 平成26年退職
- 平成27年 徳島県議会議員に初当選
- 平成29年 環境対策特別委員会副委員長

【県議会】 〒770-8570 徳島市万代町1-1

TEL 088-621-3034 FAX 088-621-2814

【事務所】 〒770-0861 徳島市住吉2丁目7-19

TEL・FAX 088-612-7118

携帯電話 080-5661-7372

h\_furukawa\_houmi@yahoo.co.jp

H P http://hiroshi-furukawa.jp

facebookで活動報告を発信中!



# 徳島県議会 平成29年9月定例会 一般質問

地球温暖化対策の強化や、地域共生社会の構築、警察における相談体制の拡充など、9月議会では徳島の未来を見据えた質問を行いました。当日の内容をダイジェストでお伝えします。



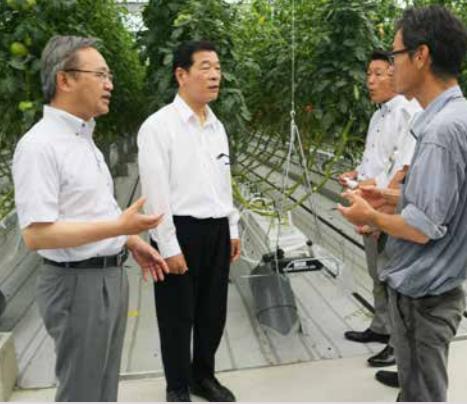
富岡西高校生との意見交換会に参加



とくしま林業アカデミーの現場を視察



城東中学校吹奏楽部の副知事表敬訪問をセッティング



とくしまアグリサイエンスゾーンの取組みをヒアリング

## 地球温暖化対策の強化について

**質問** 県として市町村の公共施設におけるカーボン・マネジメントをどのように支え、促していくのか、所見を伺いたい。

**答弁** [知事] 温室効果ガスについては排出量の約4割を占め、近年さらに増加の著しい「家庭や業務系」の民生部門における削減対策が急務となっており、事務所やビル等において大幅な省エネを実現するネット・ゼロ・エネルギー・ビル「ZEB(ゼブ)」の普及が注目されています。「ZEB」の建築事業については国の補助が進められているところであります。市町村に対して補助制度の一層の周知を図るとともに、県民や事業者の皆さまとの連携・協力により、温室効果ガスの削減に向けしっかりと取り組んでまいります。

**質問** 地域に貢献する自然エネルギーの事業化を支援するため、収益納付型補助金や公益的事業体の創設を検討すべきと考えるが、所見を伺いたい。

**答弁** [県民環境部長] 自然エネルギー発電事業者が太陽光や風力をはじめとした事業を開始するにあたり、設備投資に相当額の資金を必要とします。本県では全国に先駆け、自然エネルギーの導入に際し、設備資金を対象とした県単独の融資制度を設け、平成28年度までに累計88件、額にして21億円を超える協調融資を行いました。その結果、自然エネルギーによる電力自給率の目標(平成32年度25%)に対し、平成27年度実績で26.5%を達成しております。今後も、自然エネルギーの導入に全国の先陣を切って取り組んでまいります。

## 鳥獣被害対策の強化について

**質問** 狩猟者の減少に歯止めをかけ、持続的な鳥獣被害対策を進めるために、県は若い狩猟者に実技を体験させる事業を実施する考えはあるか。

**答弁** [政策監] 狩猟者の減少や高齢化が進行する中、次世代の狩猟者の育成・確保が極めて重要であります。県では資格受験環境の改善や出前講座の実施などの取り組みを進めており、今年度も徳島で初めて「狩猟の魅力まるわかりフォーラム」を開催するなど、若者を中心に狩猟の面白さや醍醐味を知つていただく機会を設けます。また、ベテラン狩猟者から現場で学ぶ「フィールドセミナー」も実施します。今後も、県民の皆さまが安全で安心して暮らせる地域社会の実現に向け取り組んでまいります。

## 殺処分ゼロの取組強化について

**質問** 犬猫の「殺処分ゼロ」に向けて、保護体制の整備や譲渡先拡大のため、民間愛護団体に対する育成・支援策を講じるべきではないか。

**答弁** [危機管理部長] 本県では「人と動物とともに暮らせる地域づくり」を目指して、犬猫の殺処分ゼロに向けた取り組みを進めてまいりました。その実現のためには、獣医師会、ボランティア団体などと連携した取り組みが重要であり、平成29年度内に竣工予定の譲渡交流拠点施設において、より多くの譲渡動物を適正な環境で収容するとともに、リーダーとなるボランティアの育成等に取り組みます。また、ボランティア団体を通じた都道府県を跨る「広域譲渡」に取り組んでまいります。

## 地域共生社会の構築について

**質問** 「地域共生社会」の実現に向けて、県は組織体制や関係機関との連携体制を整え、全国に先駆けた取り組みを進めるべきと考えるが、所見を伺いたい。

**答弁** [保健福祉部長] 現在、地域社会においては高齢、障がい、児童の各福祉分野に加え、生活困窮や保健・医療など複数の課題を同時に抱え、総合的な支援を必要とするケースが増えています。国では本年5月に関係法令を改正し、来年度当初からの施行を予定するなか、県内でも既存制度の枠を超えた取り組みが市町村で開始されています。また、全国的に先進的な取り組みとして「徳島県版ユニバーサルカフェの認定制度」を創設し、5施設の認定を行いました。今後も地域共生社会の実現にしっかりと取り組んでまいります。

## 警察における相談体制の拡充について

**質問** 警察はOBや心理専門職等を非常勤特別職とするなど、相談員の拡充を図るとともに、広報をしっかり行い、相談事業の大幅な拡充を進めるべきだ。

**答弁** [警察本部長] 昨年中のストーカー、DV、児童虐待などの人身安全関連事案の相談件数は約790件であり、依然、高止まりの状態が続いています。県警察でも、平成25年4月に相談窓口を生活安全部門から警務部門へ移行したほか、昨年春には少年女性安全対策課を新設するなど組織体制を見直してまいりました。相談スタッフに経験豊富な警察OBを配置するほか、今春から夜間における突発事案にも専門的対応を行っています。来春には徳島市内周辺の警察署の統合も予定するなど、組織体制の見直しに努めてまいります。

## 殺処分ゼロの取組強化の具体案を求める姿が徳島新聞に掲載されました。



平成29年9月22日付の徳島新聞記事中に、県議会9月定例会で私が行った「犬猫の殺処分ゼロ」に向けた質問が掲載されました。「新たな飼い主への譲渡を強化すべき」との提案に対し、県は2015年度に始めた名古屋市との連携事業を、県の独自事業として拡充する考えを示しました。

犬猫譲渡都市部に拡大	
1. 県議会殺処分ゼロへ事業強化	
2. 市町村殺処分ゼロへ事業強化	3. 犬猫譲渡都市部に拡大
4. 犬猫譲渡都市部に拡大	5. 犬猫譲渡都市部に拡大
6. 犬猫譲渡都市部に拡大	7. 犬猫譲渡都市部に拡大

# 福祉の常識を見つめ直し 誰もが幸せになれる環境を

社会福祉法人 あさがお福祉会 法人統括 保岡 伸聰さん



## 「楽しい」福祉を目指して

福祉業界のやり方は、なぜこんなにも外の世界とかけ離れているのだろう。それが、この業界に入っての率直な感想でした。誤解を恐れずに言えば、福祉の世界もイメージがとても大事で「楽しい」とか「かっこいい」という感情をもっと生み出せるような仕組みが必要だと思ったのです。2年ほど前に、徳島市内に「つだまちキッチン」をオープンしたのも「だれもが普通に暮らせる幸せを提供したい」という願いからでした。



ユニバーサルカフェ「つだまちキッチン」

## つだまちキッチンを地域の交流拠点に

つだまちキッチンの特徴は、一般のお客様や高齢者、障がい児たちが一つの空間で楽しく過ごせる仕組みにあります。お洒落なレストランのような空間には、高齢者のための通所デイサービスをはじめ、子どもたちの放課後等デイサービス、どなたでも利用できるユニバーサルカフェを併設。いろんな世代が心地良い空間の中で交流しながら、充実した時間を過ごしている姿を見ると本当に嬉しくなります。

## 利用者も職員も笑顔にしたい

共生社会の実現に向けて尽力され続けている古川議員にも、当初から私たちの事業にご共感いただき、大きなお力添えをいただきました。今では県内のユニバーサルカフェ第一号として認定され、県外から多くの視察が訪れています。今後は公的な機関との連携をさらに深めながら、利用者や地域の方々はもちろん、職員にとっても充実した福祉環境づくりを進めてまいります。

## 活動状況 暮らしに寄り添いながら、笑顔を増やしたい。

### ●坂東谷川の立木等除去

大平 良市さん

近所の河川敷に大きな立木があり、氾濫時、川の流れを妨げる不安要因となっていました。所管の土木事務所に取り次いでいただいた結果、立木の撤去が決まり安心しています。



### ●都市計画行政の改善

坂上 修さん

都市計画行政の不合理な一面が障壁となり、店舗の移転業務に支障をきたしていました。古川議員の熱心な働きかけのおかげで、店舗を無事オープンさせることができました。



### ●県立高校の施設改善

清水 剛さん

雨のたびに高校のグラウンドから土が流れ出し、水路に泥が溜まる原因となっていました。高校側との話し合いでの施設を改善していただき、地域住民も本当に喜んでいます。

